

「喘息」ぜんそく

とは？



西城市民病院 内科

塚本 祐司

喘息は、空気の通り道である気道(気管支など)に炎症が起き、空気の流れ(気流)が制限される病気です。気道はいろいろな吸入刺激に過敏に反応して、発作的に咳、「ゼーゼー」と気管支が鳴る喘鳴、呼吸困難が起きます。気流制限は軽いものから死に至るほどの高度のものまであり、自然に、また治療により回復し可逆的です。しかし、長く罹っている成人の喘息患者の気道では、炎症とその修復が繰り返される過程で気道の壁が厚くなって、気流制限が元に戻りにくくなり、気道の感受さ(過敏性)も増します。

成人喘息の特徴

成

人喘息は過去30年間で約3倍にも増加しているといわれています。小児喘息から持ち越す人や再発する人もいますが、40〜60代で発症する人も少な

くありません。小児と比べて、アレルギーが関与していないケースが多いのが特徴的ですが、気管支の慢性的な炎症、喘鳴が出て息苦しくなるという点では、小児喘息と変わりありません。

非アトピー型が5割を占める

こ

どもの喘息の9割以上でアレルギーの関与が認められるのに対し、成人の喘息においてアレルギーを発見できるのは5割程度で、残りの5割はアレルギーを発見できない非アトピー型です。40歳くらいまでは、ダニが最も重要なアレルギーといわれています。かぜやインフルエンザなどのウイルス感染から、喘息を発症するケースもあります。

成人発症が多い

成

人喘息の発症パターンのうち最も多いのは、成人に

なつてから初めて発症するケースです。小児喘息がいったん治癒または寛解(長期間、無症状で無治療の状態にいたった後に、成人になつて再び喘息を発症する場合もあります)。

アスピリン喘息に注意

ア

スピリンや非ステロイド系の消炎剤(風邪薬や痛みどめ等)を服用したり、注射したり、貼ったりすることで、喘息が発症・悪化することがあります。また、鼻ポリープがある場合は、アスピリン喘息に関連する場合があります。注意が必要です。

リモデリング

喘

息の治療が不十分だったりすると、長期にわたり気管支粘膜の炎症状態が続くことによつて、粘膜組織の線維化が進んで硬くなり、もとの状態に回復しにくくなります。これを気管支の「リモデリング」といいます。気管支のリモデリングは、喘息の慢性化・難治化につながります。成人の喘息が小児に比べて寛解しにくい傾向にあるのは、このリモデリングが一因とも考えられます。

うまく付き合う

小

児喘息の場合70%くらいはよくなりますが、成人喘息は寛解に持ち込むことが難しいといわれています。その理由は、喘息を悪くする要因が小児の場合より多いから、または社会生活上、発作がないときの治療(長期管理薬による予防管理)が十分にできない人が多いため「気管支のリモデリング」が起こりがちだから、などといわれています。治療目標としては、吸入ステロイド剤を基本に適切な治療を行いながら、健康な人とほとんど変わらない日常生活を送ることができるようになることです。

【発作時の気管支の状態】



【正常な気管支の状態】

